

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第272回

内村航平

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和3年9月20日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

『できない』じゃなくて『どうやったらできるか』を
みんなで考えて、どうにかできるように。

そういう方向に考えを変えてほしい。

内村 航平は、日本のプロ体操競技選手。オリンピック4大会に出場し、個人総合2連覇を含む7つのメダルを獲得。また、世界体操競技選手権でも個人総合での世界最多の6連覇を含む19個のメダルを獲得している。

Column

これまで日本の体操競技の象徴とも言える存在感と活躍で、国内外を問わず多くの人々が彼の演技に魅了されてきました。東京五輪では実力を発揮しきれない悔しい思いをされましたが、その時のインタビューで『報われない努力もあるんだと思った』というコメントがあり、今回紹介する言葉のようなポジティブさが見られず、失敗した直後だから無理もないといった感じでしたが、その後に『でも、改めて体操は面白いなと思いましたけどね、失敗してなお。人生においてこういうことも大切なんだろうなってすごく思いました。』というコメントを残しました。人生を賭けて挑んだ大舞台で失敗した直後です。動揺や落胆を隠しきれないことは当然理解できます。立ち直るまでしばらく時間がかかるだろうということも容易に想像できる中、直後にインタビューに答えなくてはいけないことそのものにも正直“気の毒”だと感じる中、受け答えしながら既に気持ちの整理をして前を向く作業が始まっていることが感じられ、彼がこれまでトップ選手として4度の五輪出場、個人総合2連覇を含む7つのメダル（金メダル3・銀メダル4）を獲得することができた原動力は、間違いなく“強靱なメンタル”なのだろうと思いました。

今回の言葉から、私は人生の中で何度も直面する『大きな選択を迫られる瞬間』について考えました。みなさんの中で大きな選択をしたのはいつですか？私がこれまでの人生を振り返ってみて大きな選択をした経験としては、進学先や就職先についてでしょうか。大いに悩み、選択してからはそれが失敗という結果にならないように努力をしてきたつもりです。これまでを振り返り、その全ての選択が正しかったかも、何をもって正しいとするのかもわかりませんが、現状に感謝しながらも、より良い状態に向上させるために何ができるのかを考えた上で選択をしてきました。だからこそターニングポイントも言える『チャンス』が現れたのだと思っています。本当は不可能を可能にはできないと思いますが、考え方の方向が違うだけで不可能だと“思い込んで”諦めてしまっていることは、もしかしたら意外と多くある（あった）のかもしれないですね。こんな時代だからこそ、チャレンジするチャンスを自ら考えて作っていくことで、これまで以上に訪れたチャンスに対し、大切に向き合える自分になれるのではないのでしょうか。